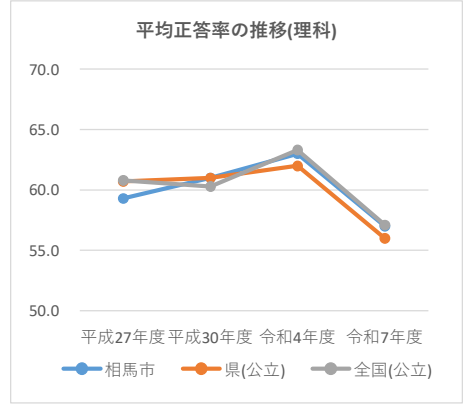
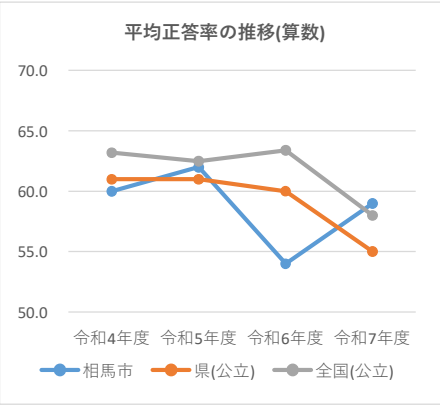
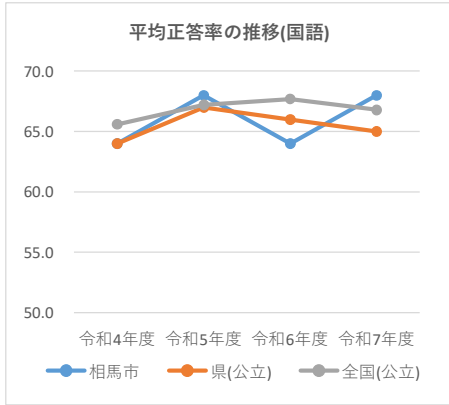


- ◆国語は、平均正答率68【県65、全国66.8】であり**全国平均を上回る。(1.2p)**
- ◆算数は、平均正答率59【県55、全国58.0】であり**全国平均を上回る。(1.0p)**
- ◆理科は、平均正答率57【県56、全国57.1】であり**全国平均と同等である。(-0.1p)**



平均正答率での比較(単位 %)

【国語】

	相馬市(a)	全国(b)	比較(a)-(b)	福島県
R 4	64.0	65.6	▲ 1.6	64.0
R 5	68.0	67.2	0.8	67.0
R 6	64.0	67.7	▲ 3.7	66.0
R 7	68.0	66.8	1.2	65.0

【算数】

	相馬市(a)	全国(b)	比較(a)-(b)	福島県
	60.0	63.2	▲ 3.2	61.0
	62.0	62.5	▲ 0.5	61.0
	54.0	63.4	▲ 9.4	60.0
	59.0	58.0	1.0	55.0

【理科】

	相馬市(a)	全国(b)	比較(a)-(b)	福島県
H 27	59.3	60.8	▲ 1.5	60.7
H 30	61.0	60.3	0.7	60.0
R 4	63.0	63.3	▲ 0.3	62.0
R 7	57.0	57.1	▲ 0.1	56.0

調査結果概況

◎本市児童の強み

【国語について】

- 主語と述語の関係などを問う「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率が全国(5.7p)を上回っている。
- 「書くこと」の平均正答率が全国(4.2p)を上回っており、「話すこと・聞くこと」「読むこと」ではそれぞれ全国と同等であり、県を上回っている。
- 評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の平均正答率がそれぞれ全国(1.4p、0.9p)を上回っている。
- 問題形式では、「短答式」「記述式」の設問の平均正答率がそれぞれ全国(3.7p、8.6p)を上回っている。
- 無解答率では、全ての設問で全国平均より低い。(14問中14問)

【算数について】

- 「図形」の領域の平均正答率が全国(7p)を上回っている。「数と式」「データの活用」の領域の平均正答率は、全国と同等であり、県を上回っている。
- 評価の観点では、「知識・技能」の平均正答率が全国(1.3p)を上回っている。「思考・判断・表現」は全国と同等である。(0.0p)
- 問題形式では、「選択式」「記述式」の設問の平均正答率がそれぞれ全国(0.3p、2.6p)を上回っている。
- 無解答率では、ほとんどの設問で全国平均より低い。(16問中11問)

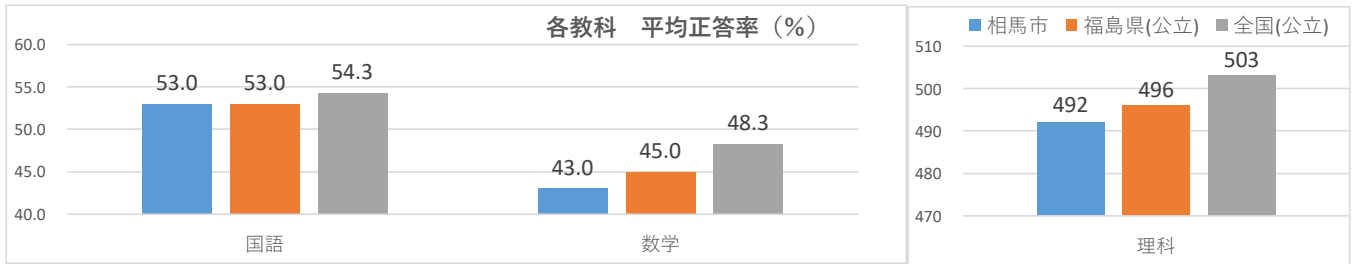
【理科について】

- 「生命」を柱とする領域の平均正答率が全国(3.1p)を上回っており、「地球」を柱とする領域では全国と同等であり、県を上回っている。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の平均正答率が全国(0.7p)を上回っている。
- 問題形式では、「短答式」「記述式」の設問の平均正答率がそれぞれ全国(0.2p、9.2p)を上回っている。
- 無解答率では、ほとんどの設問で全国平均より低い。(17問中14問)

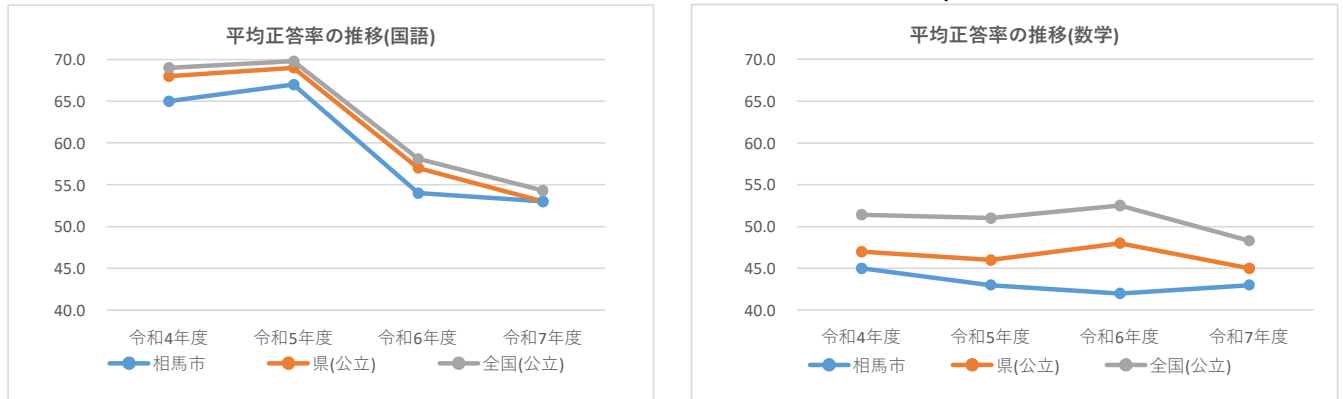
●本市児童の課題

- 国語において、「情報の扱い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」では、平均正答率が全国を下回っており、特に「複数の資料から情報を読み解き、論理的にまとめる問題」に課題がある。
- 算数において、「変化と関係」や「データの活用」の領域では、平均正答率が全国と県を下回っており、特に、「グラフから情報を読み取る問題」や「数量の関係を式や言葉で記述する問題」、「与えられた資料から必要な情報を判断し活用する問題」に課題が見られる。
- 理科において、「エネルギー」や「粒子」の領域では、平均正答率が全国と県を下回っており、特に、「電気回路の知識に関する問題」、「実験結果から考察する問題」、「水の性質に関する思考力を問う問題」に課題がある。

令和7年8月22日 学校教育課



- ◆国語は、平均正答率53【県53、全国54.3】であり**全国平均を下回る。(-1.3p)**
- ◆数学は、平均正答率43【県45、全国48.3】であり**全国平均を下回る。(-5.3p)**
- ◆理科は、平均IRTスコア492【県496、全国503】であり**全国平均を下回る。(-11p)** ※500が基準



平均正答率での比較(単位%)

【国語】

	相馬市(a)	全国(b)	比較(a)-(b)	福島県
R 4	65.0	69.0	▲ 4.0	68.0
R 5	67.0	69.8	▲ 2.8	69.0
R 6	54.0	58.1	▲ 4.1	57.0
R 7	53.0	54.3	▲ 1.3	53.0

【数学】

	相馬市(a)	全国(b)	比較(a)-(b)	福島県
	45.0	51.4	▲ 6.4	47.0
	43.0	51.0	▲ 8.0	46.0
	42.0	52.5	▲ 10.5	48.0
	43.0	48.3	▲ 5.3	45.0

調査結果概況

◎本市生徒の強み

【国語について】

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、平均正答率がそれぞれ全国と同程度であり、県(0.6p、0.5p)を上回っている。
- 評価の観点では、「思考・判断・表現」の平均正答率が全国、県と同程度である。
- 問題形式では、「短答式」の設問の平均正答率が全国と同程度である。
- 無解答率では、全国平均と同程度である。

【数学について】

- 設問の一部、確率の「不確定な事象の起こりやすい傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題」では、記述式で全国(0.1p)、県(4.2p)を上回っている。

◎本市生徒の課題

- 国語において、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「知識・技能」で漢字や語彙の意味について、平均正答率が全国を下回っている。また、「自分の考えが伝わる文章になるように」や「表現の効果について」など根拠を明確にして考える問題に課題がある。
- 数学において、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全ての領域で全国平均を下回っており、特に「図形」と「関数」は全国との差が大きいため、これらの領域の基礎学力の定着が必須である。中でも、「グラフから情報を読み取る問題」や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題」など複数の情報を読み取り活用することに課題が見られる。
- 無解答率においては、複数の条件や情報がある応用問題について、全国平均を上回っている。生徒質問調査でも「解き方がわからないときにあらかじめいろいろな方法を考えますか」の項目で全国平均を下回っている。
- 国語、数学において、下位の割合が高い。(国語5問/14問中、25.9%、数学3問/15問中、30.8%) 全体的な底上げが必要である。
- 市で取り組んでいるRSTにおいては、全国学力・学習状況調査で課題があった表やグラフ、図、データと文章を正しく結びつける「イメージ同定」を今年度は重点的に取り組んでいる。授業の中で、生徒のつまづきを減らしていけるよう、今後も教員の指導力向上、授業改善につとめていきたい。